2025 年度

【ここえみ保育園三宮】保育所自己評価

評価基準　A:かなりできているB:ほぼできているC:あまりできていないD:ほとんどできていない

第一章　総則		
保育所保育に関する基本原則		**評価**
保育所の役割	子どもの最善の利益を考慮し最もふさわしい生活の場になっていることを理解している	a
	全ての子どもについて存在とその人権を尊重している	a
保育の目標	保育所の理念・方針・目標を職員で共通理解を図っている	b
	保育理念や保育目標を職員や保護者などに見えやすい場所に掲示するなどし周知している	b
保育の方法	子ども一人ひとりの特性や発達を理解し、一人ひとりの発達過程に応じた援助を子どもの個人差に十分配慮しながら行うよう心掛けている	b
	子どもの生活のリズムを大切にし、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えている	b
	子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にしている	b
保育の環境	室内外問わず、子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	b
	保育は環境（人的・物的・社会的・空間的）を通して行われることを職員が理解している	a
保育所の社会的責任	個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に、慎重に取り扱われるべきものであることを理解しているか	a
	個人情報は適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るように努めている	a
養護に関する基本的事項		**評価**
養護の理念	保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことがその特性であることを理解し、意識して保育にあたっている	b
生命の保持	一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応している	a
	生理的欲求が十分に満たされるように、適切な援助や応答的な関わりをしている	a
	子ども一人ひとりの発達過程等に応じた適切な生活のリズムが作れるように家庭と連携している	b
情緒の安定	子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くように心がけている	a
	自分の思いや意見をはっきり伝えることができるように配慮し、尊重している	b
保育の計画及び評価		**評価**
全体的な計画の作成	保育方針や目標に基づいて保育所保育の全体像を包括的に示すものとして全体的な計画を作成している	b
指導計画の作成	日常の保育を通して、子どもの姿や発想を指導計画に反映させている	b
	各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	b
	日々の生活の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している	b
	午睡は安心して眠ることのできる安全な睡眠環境を確保するとともに、在園時間が異なることや、子どもの発達の状況や個人に合わせて配慮している	b
	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している	b

指導計画 の作成	障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けている	非該当
指導計画の展開	子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている	b
評価を踏まえた 計画の改善	保育の質の向上を図るために、保育所の自己評価を行い、全職員共通理解のもと改善に努めている。	b

第2章　保育の内容		
乳児保育に関わるねらい及び内容		**評価**
基本的事項	特定の大人との関わりを通して、愛情豊かに、応答的に保育を行っている	a
ねらい及び内容 保育の実施に関わる 配慮事項	温かい触れ合いや遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにしている	b
	離乳食については、家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている	a
	一人ひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるような空間が確保されている	a
	午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている	a
	発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	a
	楽しい雰囲気の中でゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにしている	a
	身の回りのものに対する興味や好奇心を持てるように身近な生活用具、玩具や絵本などを用意している	b
	生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気付けるように、様々なものに触れ手や指を使って遊べるようにしている	b
	上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	b
	保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、保護者への支援に努めている	b
1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容		**評価**
健康	生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している	b
	一人一人の発育に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにしている	b
	ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを大切にしている	a
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している	b
	一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている	b
人間関係	保育士等との安心したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている	a
	他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるように仲立ちをしている	b
	つまづきや葛藤、けんかなどの経験が成長に欠かせないものと捉え、その機会を大切にしていますか　（大人がむやみに仲直りさせようとしていませんか）	b
	自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする経験を重ねていけるように援助している	b
環境	玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び準備している	b
	積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	a
	安全で活動しやすい環境での探索活動等を保障している	b

言葉	楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるように関わっている	a
	気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行っている	b

表現	子どもが試行錯誤することを温かく見守るとともに、適切に援助を行っている	b
	子どもの様々な表現の仕方や感性を積極的に受け止めている	b
	諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えている	b
保育の実施に関わる 配慮事項	体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している	a
	事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れている	b
	進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	b
保育の実施に関して留意すべき事項		**評価**
保育全般に関わる 配慮事項	一人一人の子どもの心身の発達及び活動実態等の個人差を踏まえ気持ちを受止め援助している	b
	子どもが安心感を持ち、生活できるように配慮している	a
	子どもが安心して時間を過ごし、気づきや学びを得ていると感じられている	b
家庭及び地域社会との連携	保育所の資源（施設開放、相談援助、交流の場、情報提供）を開放している	b

第3章　健康及び安全		
子どもの健康支援		**評価**
子どもの健康状態並びに発育及び発達状態の把握	子どもの日々の健康状態を関係職員に周知しており、一人一人に応じた適切な対応がされている	a
	感染症発生時に、発生状況や感染症予防策について保護者に通知している	a
	不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し対応している	b
健康増進	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている	a
	子どもの健康情報を共有し、子どもの既往歴（アレルギー・熱性けいれん・脱臼壁・喘息など）について 全ての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている	a
疾病等への対応	アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し主治医から指示を得て適切な対応を行っている	a
	アレルギー疾患を持つ子どもに対し栄養士や調理員と連携し個々に合せ対応を行っている	a
食育の推進		**評価**
保育所の特性を生かした食育	職員が食育の基本を理解し、食育の計画を策定している	a
	食育を通して子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしている	a
食育の環境の整備等	食育だよりなどで年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている	a
	調理員、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている	b
環境及び衛生管理並びに安全管理		**評価**
環境及び衛生管理	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	a
	生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している	b
	子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している	b

事故防止及び安全対策	日々の安全チェック（自主点検）やヒヤリハットを活用し、危険個所はすぐに改善または職員間での共有を行い、事故防止に向けて具体的な取り組みを行っている	b
	睡眠、水遊び、食事などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し事故防止に努めている	b
	外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる	b

災害への備え		**評価**
施設・設備等の安全確保	消化器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	a
	施設の安全点検を行い、改善している	b
災害発生時の対応体制及び避難への備え	火災や地震などの災害など様々な災害を想定した避難訓練を行っている	a
	緊急時の保護者との連携体制や引渡し方法が確認されている	a
地域の関係機関等との連携	地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	a

第4章　子育て支援		**評価**
保育所における子育て支援に関する基本的事項	地域や家庭背景等を踏まえ、保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せるようにしている	b
	保護者や子どものプライバシーを保護し、知り得た事柄の秘密を保持している	a
保育所を利用している保護者に対する子育て支援	送迎時の対話や連絡帳での情報交換に加え機会を設け相談に応じたり個別面談をしたりしている	b
	子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者同士の子育ての経験を共有できる場を設けている	b
	「園だより」や「クラスだより」などを定期的に発行している	a
地域の保護者等に対する子育て支援	子育て支援の情報提供をしている	b
	関係機関、地域の団体などの情報を職員が共有し、必要に応じた仲介をしている	b

第5章　職員の資質向上		**評価**
職員の資質向上に関する基本的事項	各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行われている	b
施設長の責務	保育所の役割や社会的責任を適切に果たし、保育所組織の専門性の向上に努めている	b
	保育士等・保育所の自己評価等の結果を踏まえ、職員と協力して改善に努めている	b
	保育所の専門性を高め、活性化を図るため、自己研鑽に対する援助や助言をしている	b
	遵守すべき法令などを正しく理解するための取組を行っている	b
職員の研修等	外部研修、園内研修を実施し、保育の質の向上を図る為日常的に職員が研修を受ける機会を作っている	a
研修の実施体制等	各職員の職位や職務内容等を踏まえて体系的な研修計画を作成している	b
	研修を受けた内容や結果を職員全体に周知し、保育業務に反映している	b

年度末の評価・反省

・2025年1月末に「子どもが主体的に遊べる環境」を整えていくため、自由に遊びを選択できる環境やゆったりとした時間の中で遊びこめる環境作りを行った。こどもの興味・関心のある遊びを日々観察しつつ、ミーティングで個々の子どもの情報を共有し、適宜、室内環境を見直していった。結果、子どもたちは登園後すぐに好きな玩具や遊びに没頭し、夢中になって遊ぶことできる環境に喜びを実感していたように感じた。

・降園時は保育士が「また明日ね～！」と日々、繋がる保育を考慮してきた。日中はほぼ毎日近隣の公園へ出かけ、近隣の方々と挨拶を交わし、温かいお言葉をかけてもらった。四季折々の草花を見聞し、自然に触れたり存分に身体を動かし子どもたちは心豊かに育ってきた。

・室内環境・玩具は豊富の整っているが、環境に合わせた玩具の量を調整し、子どもが探しやすく、片付けやすいように整えていきたい。

・今年度同様子どもの主体性を尊重しつつ、子どものありのままの姿を多面的に理解し、子どもの思いを受け止め、できないではなくどうしたらできるのかを子どもの心に寄り添ってともに考えていけるように、次年度も継続していく。

次年度に向けた保育所としての課題

・子どもが主体的に遊びを選べる環境作りを職員間で協議、研鑽していく。

・好きな遊びに集中して取り組めるコーナー作りと安心して遊べるパーソナルスペースの設定に努める。

・昨日の子どもと今日の子どもとは違う。日々、子どもは成長している、変化していることを見抜き、 AIでは感知できない専門職であるということを意識しながら子どもや保護者様との関わりを大切にしていく。

・保育者は、子どもひとり一人を尊び、人格・人権意識を育てる任務であることを認識する。

・保育者は、子どもにとって「安全基地」（何かあれば、すぐに先生が来てくれる。受け止めてくれる。） であることを意識し、子どもが安心して「やってみたい！」「やってみよう！」と思えるようにする。

・保育園が地域の資源として、また地域との関わりを大切にして行けるよう、民生委員様との連携を密にし、出来得る範囲で地域交流を深めていく。

例）〇公園での花の水やりのお手伝いをする。

〇地域のイベントポスターを掲示し、地域の“夏祭り”や“もちつき大会”に親子でご参加いただけるようにする。